

アートプロジェクトの実態に関する研究 A study on the actual situation of art projects

○堀切梨奈子¹, 佐藤慎也²
*Rinako Horikiri¹, Shinya Satoh²

In recent years there are many art projects in Japan, and town has been established as a new place for art activities. And the same time, people who live in the area come to be concerned in various forms, such as a volunteer and a participant, and AP serves as new "place of the residents' activity."

By this reserch, I disclose the actual situation of art projects in Japan. And it positions as fundamental study for clarifying a technique and the way to make the place maintain with Residents' autonomy that should be.

1. 背景

1990年代から、日本各地で数多くのアートプロジェクト（以下、AP）が行なわれるようになり、新たな芸術活動の場として、まちが使われるようになった。同時に、まちなかで展開される芸術活動では、その地域で暮らす人々が、鑑賞者からボランティアまで、様々な形で関わるようになり、APが新たな"住民の活動の場"となっている。

アートとは人の営みであり、APの真価はプロジェクトに関わった全ての人々が、「新しい価値を生み出したり、提案したり、選択の幅を広げること」¹にあり、現在では、住民の主体性を持った活動を引き出す仕組みづくりを目的にして、作品制作やAPが行なわれるようになってきた。

2. 目的

本研究は、これまで日本で行なわれてきたAPの実施目的、手法、運営の特徴などの実態を明らかにすることを目的とする。APが地域に根付き、持続する活動の場としてどのように住民の主体性を引き出しているのか、その手法と在り方を明らかにするための基礎的研究として位置づける。

本研究では、APに関わる人々と場を図1のように定義する。近年のAPの多くが、ひとつのプロジェクト内で複数のアーティストを招聘し、企画を行なう傾向がある。ここで、プロジェクトとは、エリアを対象とした枠組みを指し、その最終決定権はAP運営側にある。企画とは、プロジェクト内の小企画を指し、その主導権は作品制作

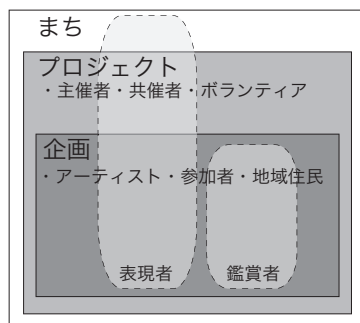


図1. 言葉の定義

を行なうアーティストにあるものとする。

3. 既往研究

特定の地域に関するAPの経年変化を考察したもの²や、APの展示空間としての在り方に着目したもの³など、APに関する論文はこれまでも数多くある。本研究は、複数のAPの経年変化をみることで、現在のAPの特徴を明らかにするものである。

4. 対象

参考文献^{4,5}および既往研究³より抽出したものから、以下の条件に該当する155件を対象とする。

- ・特定の地域に対して活動を行っているもの
- ・2012年度までに、新規実施されたもの
- ・アートを主軸のひとつにしているもの

5. 方法

各プロジェクトのホームページ、アーカイブ、ドキュメント等からそれらの実態を抽出し、分析、考察を行なう。

6. 結果と考察

6-1. 実施事業数(図2)

新規事業数、継続事業数をまとめると図2のようになる。60年代から、アーティストが新たな展示場所

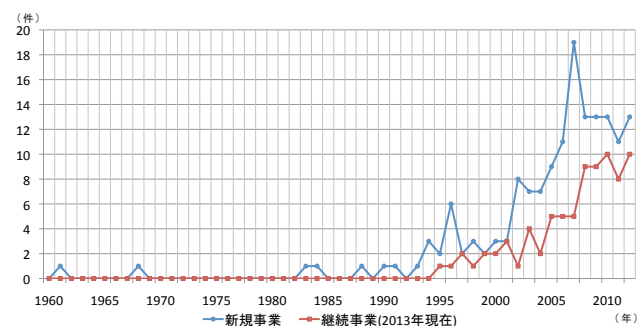


図2. 新規実施事業数

1: 日大理工・院 (前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

を求め、野外彫刻展を行なうようになった。90年代からは、自治体による企画なども始まり、新規事業が徐々に増加して、2010年にそのピークを迎える。一方で、継続される事業は全体の半数程度に留まる。

6-2. 実施目的 (図3)

地域の特色や背景により目的は様々であるが、図3ではまちへのアプローチを目的に含むものの割合を示す。60年代当初は、アーティストたちによる新しい作品発表の場としてまちが捉えられ、APが開催されていた。しかし、90年代からは、まちへのアプローチも目的として開催されるようになった。

6-3. 実施スタイル (図4)

特定の期間を定めて開催する"フェスティバル型"が当初からの主流である。一方で、1980年代からみられる"レジデンス型"は、彫刻展を行なっていく中で、完成した作品を展示するだけではなく、作品制作をその地域で行なうことや、そのプロセスを地域の人と共有することの必要性から登場した。

90年代以降、"恒常プログラム型"の実施数が急激に増加している。これは、まちに対してAPの持つ効果が次第に明らかになってきた中で、増えていったものであると考えられる。

6-4. プロジェクト主催者 (図5)

プロジェクトに対して複数団体が主催することが多くある。また、APの企画に当たって実行委員会を組織することが多い。1998年のNPO法施行をきっかけに、90年代からは、NPO主催のプロジェクトが増加している。また、自治体主催のプロジェクトも、増加傾向にある。

7. まとめと展望

・継続しているAPは、フェスティバル型に加え、90年代から積極的に恒常プログラム型が行なわれている。

・00年代以降のAPは、まちへのアプローチを主な目的にすえ、恒常プログラムを実施するものが多い。

以上のことより、恒常プログラムを実施するにいたった経緯や、地域と関係を持ったプログラム展開を行なうに当たって、どのような手法を用いているのかを明らかにする必要があると考える。

今後は、東京都の行なうAP事業である、東京アートポイント計画実施事業を対象として、それぞれのプロジェクトスタイルにいたった意図や経緯を、変化の過程も含め、ヒアリング、アンケート調査を行ない、明らかにしていきたい。

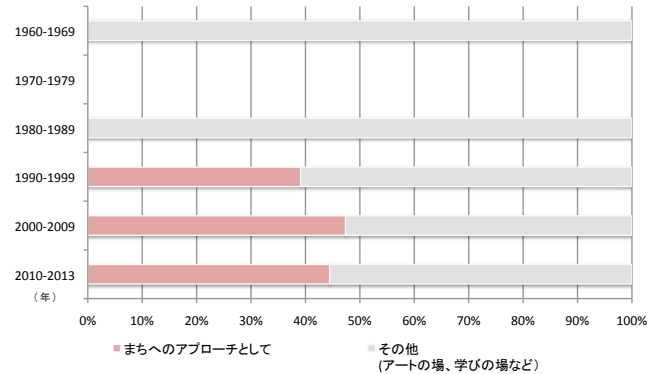


図3. プロジェクトの実施目的

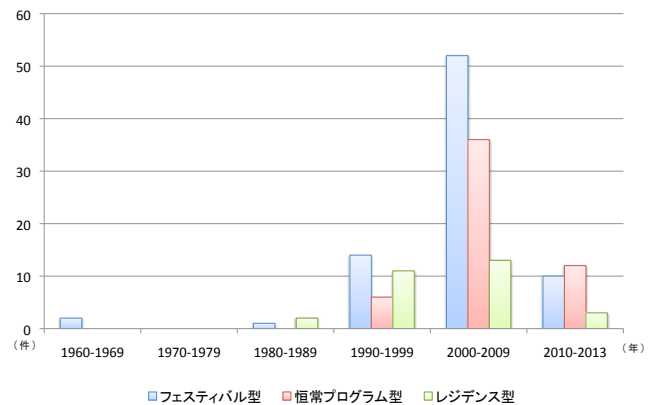


図4. プロジェクト実施スタイルの変化

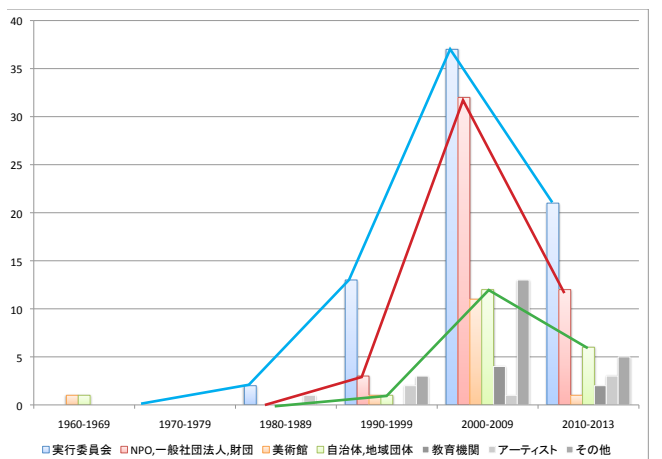


図5. プロジェクト主催者数

【脚註】

- [1] 帆足亜紀：アートプロジェクト運営ガイドライン，東京文化発信プロジェクト室，2011年3月，p. 2
- [2] 野村美里・真野洋介：墨東地域におけるアートプロジェクトと地域内の日頃の活動の相互関係，東京工業大学大学院社会理工学研究科修士論文，2012年3月
- [3] 藤井さゆり・佐藤慎也：アートプロジェクトにおける展示空間の研究，日本建築学会大会学術講演梗概集，2009年
- [4] 藤浩志・AAFネットワーク：地域をかえるソフトパワー，青幻舎，2012年12月
- [5] アートプロジェクト研究会：アートプロジェクト年表，<http://artprojectlab.jimdo.com>